

河内町

防災ガイドブック

洪水ハザードマップ

保存版



 河内町

令和2年8月

町長あいさつ

河内町は、古い時代には幾度となく利根川の氾濫に見舞われました。町内にいくつかある沼と沼の跡地は、度重なる洪水の名残りです。時代と共に、利根川の改修工事と治水技術が進むにつれ、洪水も水との闘いも過去のものとなってしまいました。

しかし、災害はいつ起こるかわかりません。本町でも、東日本大震災による家屋の損壊などの被害は記憶に新しいところであり、平成27年の関東・東北豪雨、平成28年の熊本地震、平成29年の九州北部豪雨、平成30年の西日本豪雨、今年の台風19号等による強風・豪雨と、近年は毎年大きな災害が発生しています。そして、残念なことに、今年も九州地方ほかを記録的な豪雨が襲い、甚大な被害をもたらしました。

利根川と新利根川が流れる本町は、河川の氾濫を常に心に留めて置かねばならず、また、発生するおそれがあると言われている首都直下型地震や南海トラフ地震に対してもしっかりとした防災意識を持ち、対策を考えておかなければなりません。特に、平坦で高台のない本町は、利根川が氾濫した場合の日頃からの備えは、極めて重要です。

災害に備えて、町では総合防災訓練をはじめとした防災対策に努めているところであり、この度、町民の皆さまにお役立ていただくため「防災ガイドブック」を作成しました。

この「防災ガイドブック」は、洪水から身を守る方策のほか、災害への備えや心構えをわかりやすく紹介してあります。また、巻末には洪水時に予想される浸水の深さや避難先等を記載した「洪水ハザードマップ」が付いていますので、ご家庭の目に届くところに備えて、ご家族やご近所で防災について話し合ってください、万が一の際の参考にしていただければ幸いです。



河内町長 雑賀正光

目次

■ 洪水から身を守る

- もし利根川で洪水が起きたら1 ページ
- 広域避難（遠くへ避難！）2~3 ページ
- 避難開始のタイミング4~5 ページ

■ 災害に備える①

- 風水害対策6 ページ

■ 災害に備える②

- 地震対策7 ページ

■ 災害に備える③

- 火災対策8 ページ

■ 災害に備える④

- 応急手当9 ページ
- 要配慮者のためにできること10 ページ
- 地域における防災対策11 ページ
- わが家の防災対策12 ページ
- 災害用備蓄品13 ページ

■ 町内の避難場所

- 指定緊急避難場所・指定避難所マップ14~15 ページ

■ 防災情報の入手

- リアルタイムで情報確認16 ページ

■ 家族のための連絡先

- わが家の防災メモ裏表紙

□ 別紙

- 河内町洪水ハザードマップ（町域・広域）

もし利根川で洪水が起きたら

利根川で洪水（氾濫）が発生した場合、平坦な土地の河内町は**町全体が水没**してしまいます。洪水から身を守るためには、**町外への避難（広域避難）**が必要になります。

洪水が起きた場合に予想される被害範囲

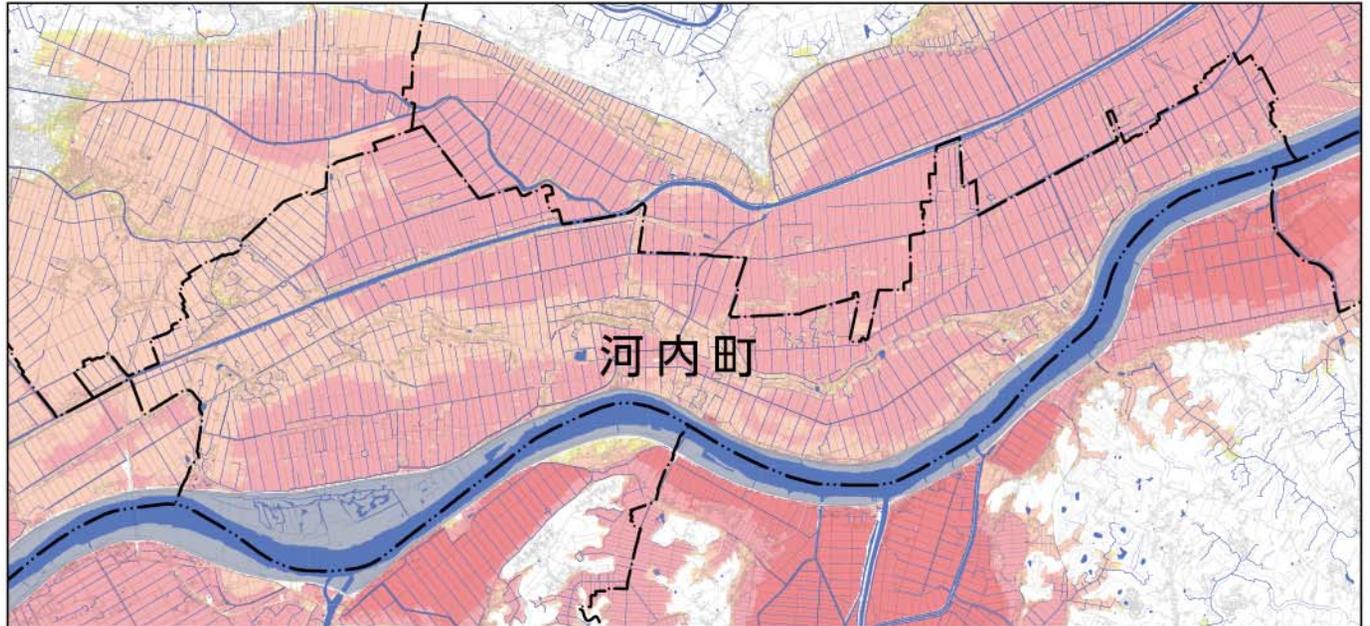
浸水深

利根川で洪水が起こると、町内の**ほぼ全域で1階の床が50cm以上**、さらに、**町内の約半分で2階が浸かる3m～5m以上の浸水**が予想されています。

凡例

浸水した場合に予想される水深
(ランク別)

- 5.0～10.0m 未満の区間
- 3.0～5.0m 未満の区間
- 0.5～3.0m 未満の区間
- 0.0～0.5m 未満の区間
- 河川等範囲



利根川水系利根川洪水浸水想定区域図（想定最大規模） 公表年月日：平成29年7月20日 作成主体：国土交通省関東地方整備局 利根川上流河川事務所・利根川下流河川事務所

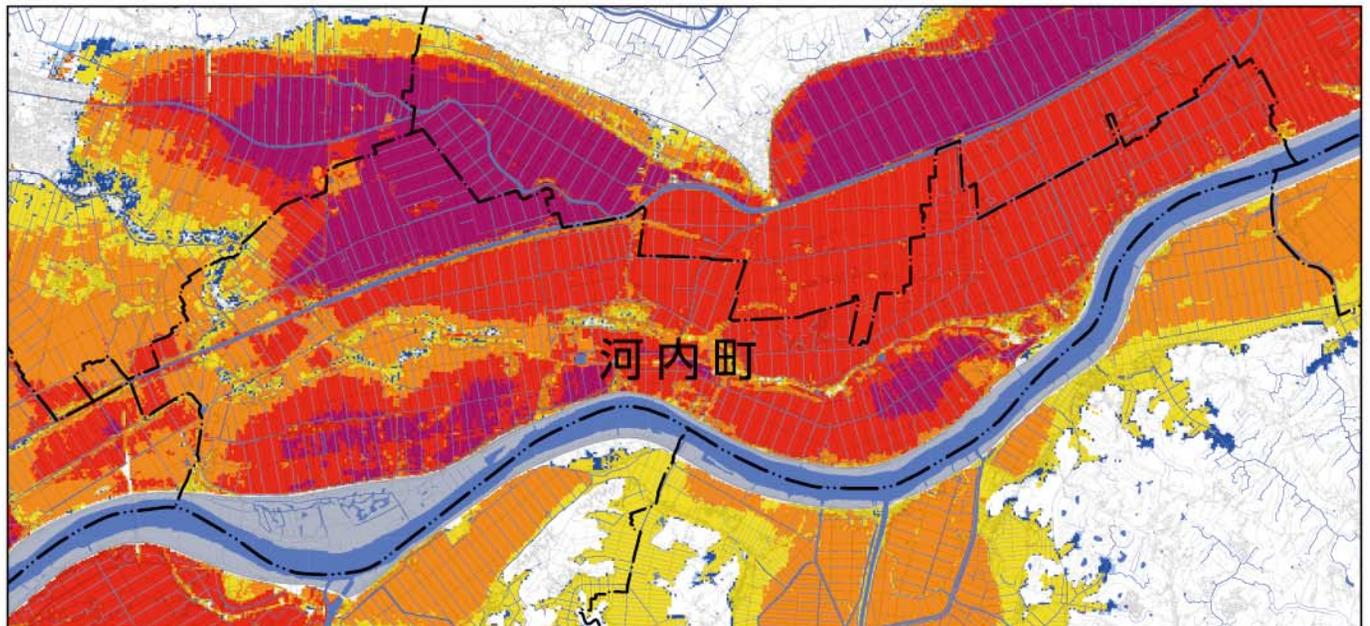
浸水継続時間

利根川の洪水による浸水は、**町内の大半で1週間以上続き**、**浸水が半月～1か月も続く場所**も少なくありません。

凡例

浸水継続時間

- 12時間
- 24時間（1日間）
- 72時間（3日間）
- 168時間（1週間）
- 336時間（2週間）
- 672時間（4週間）
- 河川等範囲



利根川水系利根川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間） 公表年月日：平成29年7月20日 作成主体：国土交通省関東地方整備局 利根川上流河川事務所・利根川下流河川事務所

洪水が起こる前に避難完了

河内町には利根川や新利根川が流れており、また平坦な低地であることから、かつては豪雨時の洪水によって家屋や農作物等への被害が発生しました。しかし、河川改修の促進や治水技術の進歩等により、近年は洪水による被害は減少しつつあります。

とはいえ、自然災害はいつ起こるか分かりません。令和元年東日本台風（台風第19号）では、大雨により利根川が増水したため、河内町として初めて「避難準備・高齢者等避難開始」を発令し、多くの町民が町外へ避難しました。

洪水から身を守るためには、浸水地域から離れる「立退き避難」を行います。洪水をもたらす大雨や台風の到来は、ある程度予想できます。天気が荒れる前に町外に避難して、自分と家族の身を守りましょう。

洪水前に町外避難！



疑問・質問

どこへ避難すればいいの？

次のページ

「広域避難（遠くへ避難！）」

広域避難（遠くへ避難！）

利根川で洪水が発生するおそれがある場合、河内町では**町外に避難する広域避難を行います**。安全で快適な避難生活をおくるためにも、普段から広域避難先（町外の避難先）の確保に努めてください。

広域避難先の種類と優先順位

優先順① 広域避難先（町外の親戚・知人宅等）に避難する

避難先の選択肢に、緊急時に身を寄せられる**町外の親戚・知人宅等**がある場合は、こちらに避難します。天気が悪くなる前に自家用車等で避難しますが、広域避難先への交通手段がない場合は、迎えに来てもらい避難しましょう。

このほか、**町外のホテルや旅館等**に宿泊する、**町外の会社事務所等**に一時的な居住スペースを確保する等も広域避難先になります。



優先順② 広域避難所（町外の公的避難所）へ車で避難する

広域避難所は、避難した町民が災害の危険性がなくなるまで滞在する町外の施設です。稲敷市、阿見町、美浦村にある学校や体育館等を避難所として開設します。

広域避難所には、基本的に避難者自身が自家用車等で向かいます。広域避難所までの移動手段がない場合は、町が臨時に運行するバスで避難します。

<広域避難所の注意事項>

- 被害状況によっては、開設できない広域避難所があります。必ず町からの開設情報（防災無線等）を確認のうえ、避難してください。
- 各広域避難所の収容人数に限りがあります。定員に達した場合は、空いている避難所へ更に移動していただくこともあります。
- ③古渡小学校については、令和3年3月閉校予定。

	市町村	名称	住所	収容人数(見込)
広域避難所	稲敷市	①新利根体育館	稲敷市伊佐津 3170	394人
	//	②旧根本小学校	稲敷市上根本 3301	136人
	//	③古渡小学校	稲敷市古渡 2166	208人
	阿見町	④旧吉原小学校	阿見町大字吉原 614	81人
	//	⑤阿見町町民体育館	阿見町大字若栗 1886-1	141人
	美浦村	⑥安中地区多目的研修集会施設	美浦村大字間野 341-1	50人

臨時バスによる広域避難所への移動について

広域避難所に臨時バスで避難する場合は、町内の一時集合場所（バス乗場）まで徒歩等で移動し、バスに乗車します。臨時バスの運行予定は、防災無線、町ホームページ等で発表します。

バスルート等の詳細は、別紙洪水ハザードマップでご確認ください。

町内のバスルート(系統)と一時集合場所(バス乗場)

Aルート	①十三間戸～⑩二本松
Bルート	①宮淵～⑪かわち学園
Cルート	①旧生板小学校～⑩庄布川集会所前
Dルート	①藤蔵～⑩流作

優先順③ 車中泊避難場所（町外の避難場所）へ車で避難する

車中泊避難場所は、阿見町総合保健福祉会館の駐車場です。屋外のトイレが利用できます。避難中は自家用車の車内で過ごすため、一定のプライバシーは確保できます。

<車中泊避難所の注意事項>

- 飲料水や非常食のほか、毛布やブランケット等の就寝・寒さ対策のアイテムも用意しましょう。
- エンジンのかけっぱなしによる一酸化炭素中毒や、同じ姿勢が長時間続くことで発症するエコノミークラス症候群等に注意しましょう。

	市町村	名称	住所	駐車台数(見込)
車中泊避難場所	阿見町	⑦阿見町総合保健福祉会館(西側駐車場)	阿見町大字阿見 4671-1	300台

町外避難に時間的余裕がない場合の避難先

避難先① 町内の指定緊急避難場所(学校等の2階部分以上)へ避難する

洪水に備える避難行動は、河内町に大雨や台風が近づく前に完了しておくことが肝心です。

しかし、急に猛烈な雨が降ってきた、夜間で遠くへの移動に不安がある、町外への交通網が寸断された等の場合は、**町内の指定緊急避難場所(学校等の2階部分以上)**に避難して**垂直避難**を行います。

	名称	住所
町内の指定緊急避難場所	旧生板小学校	河内町生板 2506
	旧みずほ小学校	河内町源清田 1942
	かわち学園	河内町長竿 5456-1
	旧金江津小学校	河内町金江津 4465
	つつみ会館	河内町金江津 645-227

<指定緊急避難場所の注意事項>

- 必ず町からの開設情報(防災無線等)を確認のうえ、避難してください。
- 洪水時には施設が水没し、孤立するため、**電気・トイレ等のライフラインが停止するおそれがあります。**
- 車での避難ができる方は利用しないでください。指定緊急避難場所の駐車場は水没します。

避難先② 自宅または近所の建物の2階以上へ避難する(屋内安全確保)

危険が切迫し、町内の指定緊急避難場所等への立退き避難ができない場合は、身近な場所に避難する「**屋内安全確保**」を行います。

屋内安全確保は、自宅または近所の堅牢な建物の2階以上に移動する避難行動です。

なお、川の付近に自宅がある場合は、洪水により家屋ごと流されてしまう危険があります。ハザードマップには「家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)」が記載されていますので、自宅が流されない場所か確認してください。



<屋内安全確保の注意事項>

- 自宅が流される可能性が高い場所にある場合は、あらかじめ「家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)」の対象外にある2階以上の堅牢な建物を見つけておきます。
- 洪水時には家屋が水没し、孤立するため、**電気・トイレ等のライフラインが停止するおそれがあります。**避難の際には、飲料水や非常食とともに、スマートフォン等の連絡アイテムも用意しましょう。

広域避難せずに町内にとどまると…

洪水時に町内で避難すると、浸水がひくまで建物内から移動できないおそれがあります。停電や断水等も同時に発生することが考えられ、不便な生活を強いられる可能性が高くなります。

<浸水範囲内の建物内に避難した場合の問題点>

移動

- 家から出られない。
- ※浸水深が歩ける程度まで下がらないと、救助を待つしかない。

電気

- 部屋の照明がつかない。 ○冷蔵庫の中身が腐る。
- テレビが見られない。
- 冷暖房機器(エアコン・扇風機・電気ヒーター等)が使えない。
- 充電ができない。(スマートフォン・ノートパソコン等)
- ※停電が復旧するまで使用不可。



ガス

- 火が使えない。
- ※プロパンガスの容器や調整器等の安全が確認できるまで使用不可。

水道

- 水道が使えない。 ○トイレの水が流せない。
- お風呂に入れない。 ○洗濯ができない。
- ※断水が復旧するまで使用不可。

衛生面

- ごみの回収が来ない。
- ごみの置き場所に困る(特に生ごみ)。
- 使用済みの簡易トイレが捨てられない。
- 食中毒や感染症が発生するおそれがある。



疑問・質問

いつ避難を始めるの？

次のページ

「避難開始のタイミング」

避難開始のタイミング

町からの避難に関する情報は、避難を始める時期を判断するために重要な情報です。情報の内容や入手方法を事前に確認しましょう。

避難情報の種類と行動

下の表は、気象情報や避難情報の種類に応じた行動を示したものです。警戒レベルが上がるたびに、危険度も増していきます。なお、警戒レベルや避難情報等は、必ずしも下記の順番で発令されるとは限りません。また、これらの情報が発令されなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

	警戒レベル	避難情報等	避難行動
大 ↑ 危険度 ↓ 小	警戒レベル 5	災害発生情報 (河内町が発令)	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。
	警戒レベル 4	避難勧告 避難指示(緊急) (河内町が発令)	速やかに立退き避難を開始してください。 広域避難や緊急避難場所への立退き避難が危険だと自ら判断した場合は、 屋内安全確保を開始してください。
	警戒レベル 3	避難準備・高齢者等避難開始 (河内町が発令)	避難に時間のかかる人(高齢者、障害者、乳幼児等)とその支援者は、 立退き避難を開始してください。 その他の人は立退き避難の準備を開始してください。
	警戒レベル 2	大雨注意報 洪水注意報 (気象庁が発表)	ハザードマップ等で避難先や避難経路等を確認してください。
	警戒レベル 1	早期注意情報 (警報級の可能性) (気象庁が発表)	5日先までに大雨警報等が発表される可能性があります。 災害への心構えを高め、最新の防災気象情報等に留意しましょう。

避難基準水位

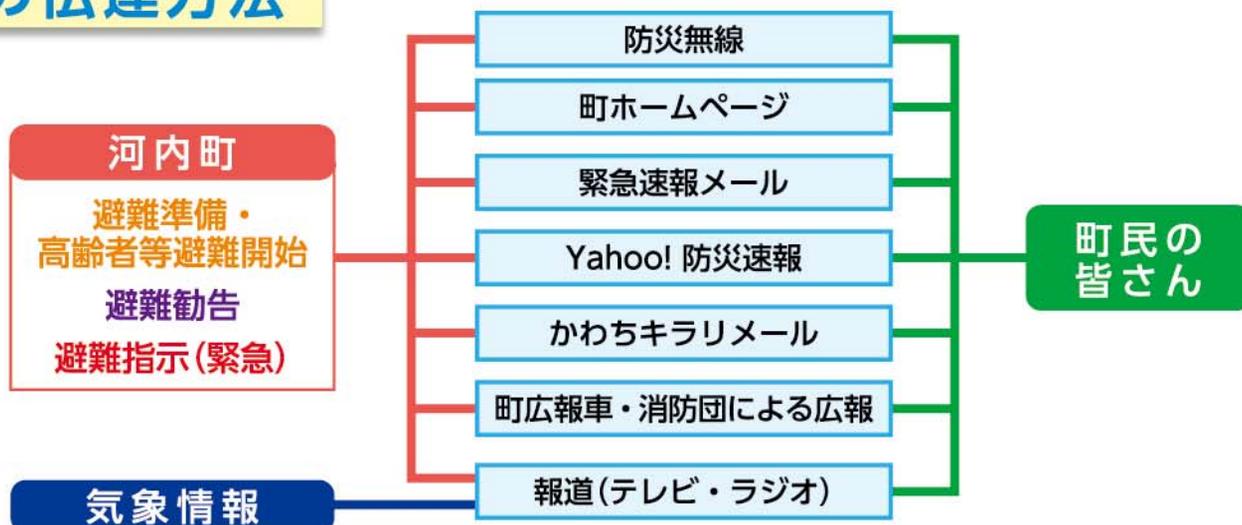
避難情報は、河川の水位や気象情報等を総合的に判断して発表します。河川の場合は、指定された観測所の水位が各避難情報の発表目安になっています。

避難基準水位(一例)				
利根川押付水位観測所 (利根町押付新田)	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
	3.10m	5.75m	7.10m	7.80m
水位に応じた避難情報	—	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示(緊急)

避難情報等の伝達方法

避難情報の発令は、防災無線や町ホームページ等で行います。災害時に困らないためにも、日頃から町の最新の情報を確認する癖をつけましょう。

「Yahoo! 防災速報」と「かわちキラリメール」の登録方法は、16 ページを確認してください。



洪水対応のタイムライン

洪水が発生する3日前からの防災情報、町民の行動(例)を時系列に整理しました。災害時、どのような行動をとるのか、普段から考えて右欄「マイ・タイムライン」に記入してください。

このタイムラインは、あくまで避難行動の一例に過ぎません。自分と家族の生活状況や自宅の場所などを踏まえて、避難開始のタイミングを決めておきましょう。

時間軸	防災情報 <small>緑：河内町 黒：気象・水象情報 青：利根川下流河川事務所</small>	町民の行動(例)	マイ・タイムライン (自分と家族の行動)
3日前	<ul style="list-style-type: none"> ●台風予報 ●気象情報・雨量等の情報収集 ●町職員、関係機関連絡体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハザードマップを確認する。 ●テレビ等で今後の天気予報を確認する。 ●家族の今後の予定を確認する。 ●非常時持出品を準備する。 ※13ページ参照 ●家の周りに風で飛ばされるようなものがないか確認する。 	
2日前	<ul style="list-style-type: none"> ●台風に関する気象庁記者会見 ●大雨注意報・洪水注意報発表 ●広域避難先市町村(稲敷市等)への避難事前連絡 ●バス会社への運行事前連絡 		
1日前	<ul style="list-style-type: none"> ●台風に関する気象庁記者会見 ●大雨警報・洪水警報発表 ●町災害警戒本部設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●町外の親戚・知人宅等への連絡・避難手段等を確認する。 	
18時間前	<p>水防団待機水位到達 ●水防警報発令</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水防団(消防団)待機 ●町災害対策本部設置 (広域避難先市町村へ受入要請) ●臨時バスの手配 ●河川水位等の情報収集(以後随時) 	<ul style="list-style-type: none"> ●携帯電話・スマートフォンの充電を100%にする。 ●車のガソリンを満タンにする。 	
12時間前	<p>氾濫注意水位到達 ●洪水予報発令</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員配置(避難所開設準備等) ●水防団(消防団)出動(巡視等) <p>避難準備・高齢者等避難開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ●広域避難所開設・臨時バス運行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●テレビ、インターネット等で大雨や河川の水位状況を確認する。 ※以後随時 <p>高齢者等避難開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難の準備(高齢者等以外) 	
7時間前	<p>避難判断水位到達 ●洪水予報発令</p> <p>避難勧告</p> <ul style="list-style-type: none"> ●緊急避難場所開設(町内学校等) ●臨時バス運行 ●大雨特別警報 	<p>全町民避難開始</p>	
6時間前	<p>氾濫危険水位到達 ●洪水予報発令</p> <p>避難指示(緊急)</p>	<p>町外への避難完了</p> <p>町外への避難が間に合わない場合は</p> <p>屋内安全確保</p> <p>町内の緊急避難場所または自宅等の2階以上に避難</p>	
	<p>災害発生情報</p>		



風水害対策

大雨や台風によって洪水が発生すると、町には甚大な被害が出る可能性があります。気象情報をこまめに確認し、大雨や台風が近づく前に避難を始めてください。

大雨・台風について

注意報・警報・特別警報

気象庁は大雨や暴風等によって発生する災害の防止・軽減のために、さまざまな防災気象情報を発表します。このうち、警報と特別警報はそれぞれ7種類(大雨・大雪・暴風・暴風雪・波浪・高潮等)、注意報は16種類(大雨・洪水・強風等)あります。

種類	内容
注意報	災害が発生するおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報です。
警報	重大な災害が発生するおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報です。
特別警報	警報の発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害が発生するおそれが著しく高まっている場合に発表し、最大級の警戒を呼びかけます。

雨の強さと降り方

1時間雨量	10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上
雨の強さ(予報用語)	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージや外の様子	ザーザーと降る。木造住宅の屋内で、雨の音で話し声が良く聞き取れない。	どしゃ降り。傘をさしていても濡れる。車のワイパーを速くしても見づらい。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

風の強さと吹き方

平均風速	10m以上～15m未満	15m以上～20m未満	20m以上～30m未満	30m以上
風の強さ(予報用語)	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
人への影響や外の様子	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。樹木全体が揺れ始める。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。雨戸やシャッターが揺れる。	何かにつかまっていけないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。

台風の大きさと強さ

台風の大きさ			台風の強さ			
風速 15m/s 以上の半径	500km 以上～800km 未満	800km 以上	最大風速	33m/s 以上～44m/s 未満	44m/s 以上～54m/s 未満	54m/s 以上
階級	大型(大きい)	超大型(非常に大きい)	階級	強い	非常に強い	猛烈な

集中豪雨について

集中豪雨は、前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより、激しい雨が数時間にわたって降り続く現象です。総雨量は狭い地域で数百 mm に達します。

<集中豪雨への備え>

- 気象情報、町や防災関係機関の情報をこまめに確認しましょう。
- 停電に備えて懐中電灯、携帯ラジオ等を用意しましょう。
- 家財道具を部屋の高い場所に移動しましょう。
- 荒天時は外出を控えましょう。外出中の場合は早く帰宅しましょう。

竜巻について

竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗状または柱状の雲を伴います。

被害域は幅数十～数百 m、長さ数 km の範囲に集中しますが、数十 km に達したこともあります。

<竜巻への備え>

- 竜巻の発生確度を発表する「竜巻発生確度ナウキャスト」を確認しましょう。
- 竜巻の前兆現象(低く黒い雲(積乱雲)が接近する、雷鳴や雷光が見える、急に冷たい風が吹く、ひょうが降る等)に気づいたら、屋内に避難しましょう。
- 雨戸、窓、カーテンを閉めて屋内の中心部に近い部屋に移動しましょう。

地震対策

地震が来たら、揺れがおさまるまでその場を動かず、頭を保護して身の安全を確保します。揺れがおさまったら家族と自宅、近所の安全を確保しましょう。

地震対応のタイムライン

時間軸	町民の行動	日頃の備え
地震発生	<p>すぐに身の安全を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●揺れを感じたり、緊急地震速報を受信したら、身を守る行動をとります。 ●最初の大きな揺れは約1分間。 	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急地震速報の受信手段の確認 ※普段聞こえる場所にあればチェックを入れる <input type="checkbox"/>テレビ <input type="checkbox"/>ラジオ <input type="checkbox"/>防災無線 <input type="checkbox"/>携帯電話・スマートフォン
1分～2分後	<p>火元の確認、初期消火、家族の安全確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火を使っている時は、揺れがおさまってから火の始末をします。 ※ガスコンロやストーブ等には対震自動消火装置付きが普及しているので、慌てて行動しない。 ●出火した時は、落ち着いて消火。※初期消火の限界は天井に火が燃え移る前。 ●家族の安全を確認します。 ●靴や厚手のスリッパを履き、ガラス片等から足を守ります。 ●屋外への出口を確保します。屋内が危険な場合は避難します。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族の避難先・指定緊急避難場所を記入 <p>避難先</p> <hr/>
2分後	<p>出火・漏電の防止、隣近所の安全確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガスの元栓を閉じる。プロパンガスボンベの転倒や破損がないか確認します。 ●電気のブレーカーを落とします。 ●隣近所の人に声をかけて安全を確認します。 	
5分後	<p>正しい情報を入手する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テレビやラジオ等で正しい地震情報を確認します。 ●電話をかける際は緊急連絡が優先。 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時備蓄品の確認 ※準備できていればチェックを入れる <input type="checkbox"/>非常時持出品 <input type="checkbox"/>飲料水・備蓄品 ※最低3日分・推奨1週間分
10分～数時間～3日後	<p>救出・救護活動と被害の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●負傷者がいる場合、協力して救出・救護活動を行いましょう。 ●建物や自宅周辺の状況を確認し、安全な場所と危険な場所を見極めます。 	

身の安全の確保方法

屋内

自宅・会社・学校

- テーブルや丈夫な机の下に身を隠して頭部を守ります。
- 物が「落ちない（照明・壁時計等）」「倒れない（食器棚・ロッカー等）」「移動しない（キャスター付きの棚等）」空間に身を寄せます。



エレベーター

- すべての階のボタンを押します。停止した階ですぐ降ります。
- 閉じ込められた場合、非常用呼び出しボタンを押して救助を待ちます。



屋外

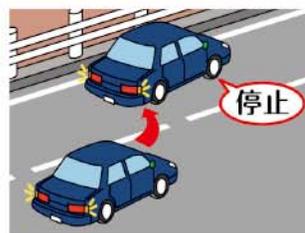
路上・街中

- カバン等の持ち物（なければ両手）で頭部を守ります。
- ブロック塀や自動販売機等、転倒や倒壊するおそれのある物から離れます。
- 看板や窓ガラス等の落下物、垂れ下がった電線に注意。
- 近くの公園や空地等に避難します。



運転中

- 徐々にスピードを落として道路の左側で停車します。
- 揺れがおさまるまで車内に留まります。
- 車から離れる場合は、キーをつけたまま窓を閉めます。ドアはロックせずに、徒歩で避難します。



火災対策

火災を見つけたら、すぐに大声で周囲に知らせて119番通報をします。初期消火で対応できるリミットは2分間～3分間程度とされていますので、火が消せなかったらすぐに避難しましょう。

初期消火の3原則

① 早く知らせる

- 「火事だ!」と大声で近隣の人に知らせて救助を求めます。声が出ない場合は非常ベルを鳴らす、音の出る物(鍋等)を叩いて異変を知らせます。
- 小さな火災でも速やかに消防署(119番)に通報します。
- 当事者は消火に従事し、通報は近くの人に依頼します。

② 早く消火する

- 火が小さい初期段階ならば、自分たちで消火できます。
- 消火器があれば使用します。
- 消火器がなければ、風呂の残り湯を使う、毛布等で火の勢いを抑えて水をかける等、手近なものを活用します。

③ 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、身の安全を優先して素早く避難します。
- 避難の際は煙に注意。姿勢を低くして、濡れたタオル等で口をふさいで煙を避けます。

初期消火のコツ

火を消す際、すぐに「水をかける」と考えがちになりますが、油鍋等は「水をかける」とかえって危険です。状況に応じて「空気を遮断する」方法をとりましょう。

油 鍋

慌てて水をかけるのは厳禁。消火器がない場合は、濡らした大きめのタオル等で手前から覆い、空気を遮断して消火します。

カーテン・ふすま・障子

天井に燃え移るのを防ぐことが大切です。引きちぎる、蹴り倒す等で火を天井から遠ざけてから消火します。

衣 類

すぐ服が脱げる場合は脱ぎ、足で踏み消します。服が脱げない場合は、地面や床を転がまわって火を消します。

石油ストーブ

消火器がない場合は、濡らした毛布などで覆い、その上から一気に水をかけて消火します。

電気製品

いきなり水をかけると感電するおそれがあります。電源プラグを抜き、ブレーカーを落としてから消火します。

消火器の使い方



<消火器の使い方のポイント>

- 風上から放射することで、自分の身を守りつつ効果的な放射が行えます。
- 室内で放射する場合は、逃げ道を確保するため出入口を背にします。
- 放射の際は火の根元を狙い、手前からほうきで掃くように薬剤を放射します。



住宅用火災警報器設置の義務化

火災警報器設置は、消防法によって一般住宅にも設置が義務づけられています。新築住宅は平成18年6月1日、既存住宅も平成21年6月2日から住宅用火災警報器の設置が必要になりました。

「住宅火災による死者」の7割が逃げ遅れによるもの、とのデータがあります。

設置が義務づけられている場所以外にも、火災警報器を設置するようにしましょう。

<設置が義務づけられている場所>

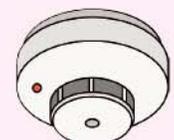
- 寝室(子供部屋等、就寝に使われている部屋も含む)
- 階段(寝室がある階の階段上部)

<設置が推奨される場所>

- 台所
- 居室(リビング・ダイニング、書斎等)

<住宅用火災警報器の種類>

- 煙式…煙に反応するタイプ
- 熱式…熱に反応するタイプ
- 複合式…煙と熱に反応するタイプ



応急手当

突然のけがや病気におそわれた人がいたら、救急車の到着を待つ間や病院に連れていく前に応急手当を行いましょう。応急手当のうち、心停止の対応を「一次救命処置」、心停止を含まない応急手当を「ファーストエイド」といいます。

一次救命処置(心肺蘇生とAED(自動体外式除細動器))

心肺蘇生

①反応(意識)と呼吸の確認

- 両肩を軽くたたきながら声をかけ、反応(意識)があるか確認します。反応を確認する際は、傷病者と救助者の顔があまり近づきすぎないようにします。
- 反応がない、又は判断に迷う場合は助けを求めて119番通報とAED搬送を依頼します。
- 胸と腹部の動きを見て「普段通りの呼吸」をしているか、10秒以内で確認します。



②胸骨圧迫

- 普段通りの呼吸がない、又は判断に迷う場合は、すぐに胸骨圧迫を30回行います。
- 感染症防止(エアロゾルの飛散防止)のため、胸骨圧迫を始める前に、傷病者の鼻と口にハンカチやタオル等をかぶせます。
- 胸骨圧迫は、胸の真ん中にある胸骨の下半分を「両手」で「約5cmの深さの圧迫」を「1分間に100回~120回のテンポ」で行います。小児の場合は「両手または片手」、乳児の場合は「2本の指」で「胸の厚さの1/3程度の深さの圧迫」になります。



③人工呼吸

- 傷病者が成人の場合は、人工呼吸を省略します。
- 傷病者が小児の場合は、訓練を積み、技術と意思がある場合は、胸骨圧迫の後に人工呼吸を2回行います。
- 傷病者の気道を確保したまま鼻をつまみ、約1秒かけて傷病者の胸が上がるのがわかる程度の吹込みを行います。2回目は、いったん口を離し、傷病者の息が自然に出るのを待ってから行います。



④胸骨圧迫と人工呼吸

- 成人の場合は「胸骨圧迫30回」を1セット、小児の場合は「胸骨圧迫30回と人工呼吸2回」を1セットとして、救急隊員が到着して交代するまで続けます。

AED(自動体外式除細動器)

①電極パッドを胸に貼る

- AEDの電源を入れて、音声ガイドに従って操作します。
- 2枚の電極パッドを傷病者の肌(胸の右上と左下側)に直接貼り付けます。
- おおよそ6歳ぐらいまでは小児用電極パッドを貼ります。



②心電図解析と電気ショック

- AEDが心電図解析を始めます。解析中は傷病者に触れません。
- 電気ショックが必要な場合は、音声ガイドに従ってショックボタンを押します。
- 電気ショックが終わったら、すぐに胸骨圧迫を再開します。

③心肺蘇生とAEDの繰り返し

- AEDは2分おきに自動的に心電図解析を始めます。
- 救急隊員が到着して交代するまで、胸骨圧迫(小児の場合は胸骨圧迫と人工呼吸)とAEDの手順(心電図解析と電気ショック)を繰り返します。

ファーストエイド(急なけがへの対応)

止血

- 止血の基本は、直接圧迫止血法です。
- 出血している傷口にガーゼやハンカチ等を当てて、直接強く押さえます。
- しばらく圧迫することで止血を行います。
- 救助者は感染予防のため、止血の際にはできる限りビニール手袋やビニール袋等を使用します。



やけど

- 急いで水道の流水で、痛みが和らぐまで冷やします。
- 衣類の上からやけどした場合は無理に脱がさず、そのままの状態です冷やします。
- 水ぶくれはつぶさず、消毒済の布か洗濯した布で覆い、その上から冷やします。



骨折

- 骨折した手足の末梢を観察できるように、手袋や靴、靴下等は脱がせます。
- 骨が折れた部分を、添え木や三角巾等で固定します。
- 骨折部が屈曲している場合は、無理に正常位に戻そうとせず、そのままの状態です固定します。



要配慮者のためにできること

要配慮者（高齢者、障害者、難病患者、妊産婦、乳幼児、外国人等）は、災害が発生した場合に速やかな避難や生活手段の確保等が行いにくい立場にあります。皆さんで協力して支援しましょう。

要配慮者への支援

要配慮者は、災害発生時に困惑することが増えるおそれがあります。不安な状況に置かれている人に対して、率先して優しく接してサポートしましょう。

<支援する際のポイント>

- ためらわず、自分から要配慮者に声をかけましょう。
- 要配慮者は移動や行動に時間を要するので、早めの声かけ・行動を心がけましょう。
- ひとりで行動させず、必ず付き添う人がいるようにしましょう。
- 災害時、円滑な支援が行えるように日頃からコミュニケーションをとりましょう。

要配慮者への支援方法（一例）

高齢者

- 援助が必要な場合は、できるだけ複数の人で対応します。
- 歩くのが大変なのに急な移動が必要な場合は、車いすや担架、おぶったりして移動を手伝います。
- 頻繁に明るく声をかけ、孤立感や不安感を和らげましょう。

耳の不自由な人

- 話しかける場合は、近くに寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かします。
- マスクをしている場合は、紙とペン等で筆談します。道具がなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談します。
- 伝わりにくい場合は、身ぶり、手ぶりを交えましょう。

妊産婦、乳幼児

- 妊産婦は基本的に自分で行動できますが、何事にも時間を要するのでサポートしましょう。
- 移動の際は、支援者と一緒に行動しましょう。
- 乳児は、抱っこ紐やおんぶ紐でしっかり保護して避難しましょう。

目の不自由な人

- 最初に「お手伝いしましょうか」などと声をかけましょう。
- ゆっくり、はっきり、大きな声で話します。
- 移動する場合は、目の不自由な人の前に立ち、ひじの上を軽くつかんでもらい、半歩前くらいをゆっくり歩きます。「階段があります」など障害物を説明しながら進みます。

車椅子を利用する人

- 階段や段差のある場所で車椅子に乗った人を介助する場合は、必ず3人以上で対応しましょう。
- 4人で対応する場合は、車椅子を囲むように左右前後に立ちます。車椅子のパイプやハンドグリップ、ハンドリム等を掴み、車椅子を持ち上げます。
- 段差や階段を上がる時は車椅子を前向き、下がる時は後ろ向きにして進みます。

知的障害や精神障害のある人

- 穏やかに声をかけ、落ち着いて行動できるように配慮しましょう。
- パニックを起こしている場合は、優しく声をかけて静かな空間に誘導しましょう。

外国人

- 孤立感や不安感を抱かせないため、積極的に話しかけましょう。
- 言葉が通じない場合には、身ぶり、手ぶりを交えましょう。
- 翻訳アプリ等を使用してコミュニケーションをとりましょう。

自助・共助・公助とは

「自助」「共助」「公助」とは、防災や減災の対応に「自ら助ける・行動する」「地域・近隣で助け合う」「行政が支援する」という考え方です。「自助」「共助」「公助」では、相互に協力・連携することが欠かせません。

自助の活動例	<ul style="list-style-type: none"> ●住宅の耐震化、家具の転倒防止 ●飲料水や食料、非常用物資の備蓄 ●被災時における連絡手段の確保
共助の活動例	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練や防災研修会の実施 ●自主防災組織の設立・運営 ●要配慮者への支援活動
公助の活動例	<ul style="list-style-type: none"> ●防災対策の検討・推進 ●自助、共助への支援



地域における防災対策

大規模な災害が発生した場合、交通網の寸断や多方面への対応等によって町や公的機関等による活動が迅速に行えないおそれがあります。このような事態で頼りになるのが地域における減災対応である「共助」による活動です。

自主防災組織

「自主防災組織」とは、自分たちの地域で自分たちでできる防災活動を行うために結成される組織で、「共助」においても中心的な役割を発揮します。未結成の地域は「自主防災組織」を結成しましょう。

自主防災組織の構成と特徴

既にある団体を活用する

自治会等、既存の組織で活動を兼務する場合は、日頃から多様な活動を展開しているため、組織内外において連携がとりやすい。

新たな組織として結成する

既存組織とは別に、地域住民が新たな組織を結成して運営する場合は、自主防災に特化することで専門性が高まります。しかし、財源の確保が難しいと考えられます。

自主防災組織の主な活動

平常時

- 要配慮者を含めた地域住民のコミュニティづくりを行います。
- 日頃の備えや災害時の確かな行動等に関する防災知識の普及や啓発を行います。
- 地域の危険箇所を把握して点検します。
- 発災時に円滑な活動を行うため、防災訓練を実施します。
- 防災用資機材（消火用資機材や応急手当用医薬品等）の整備・点検等を行います。
- 災害発生時における行政や消防団等との連絡手段や伝達事項等のマニュアルの策定、再確認等を行います。

発災時

- 初期消火を行います。消防署や消防団が到着するまでの間、火災の拡大延焼を防ぎます。
- 正しい被災情報を収集し、住民や関係各所に伝達します。
- 地域の被災状況を取りまとめます。
- 負傷者の救出や応急手当等の救護活動を行います。
- 住民を集めて安全な場所に避難誘導します。
- 炊き出しや給水、救助物資の分配等へのサポートを行います。
- 要配慮者の安全確保等を行います。

企業の防災対策

地域で事業を展開する企業も「共助」の一翼を担っています。発災時には、「企業の専門性」を活かした支援活動を行いましょう。地域コミュニティの一員として、自主防災組織や消防団等と積極的に連携を図りましょう。

企業による防災・減災・支援活動

- 発災時は、各企業の特徴を活かした協力、支援を行いましょう。
(例) 飲食業…炊き出しの提供
建設業…資機材を用いた瓦礫からの救出活動
運輸業…けが人の搬送、物資の運搬
- 消防用設備の点検・整備や消防計画の作成、防災訓練等を行いましょう。
- 発災時や復興時に重要業務が継続できるように BCP（事業継続計画）や BCM（事業継続マネジメント）を策定しましょう。

河内町消防団

河内町消防団の団員数は約 300 名で、3 方面隊・6 分団と女性分団、機能別消防団で構成されています。町の安心・安全を守るために、火災発生時の消火・救助活動だけでなく、平常時の警戒活動や模擬火災訓練、防火診断や高齢者宅訪問等、さまざまな活動を行っています。

消防団の活動に興味のある方は、河内町総務課までお問合せください。



河内町総合防災訓練

総合防災訓練は、大規模地震の発生を想定し、町内全域で行われます。各家庭でのタオルによる安否確認訓練、避難場所での放水体験や応急手当訓練等、さまざまな訓練を通して災害に備えます。



わが家の防災対策

大きな災害は、いつ発生するか分かりません。日頃から自宅の安全状況を確認し、万が一の事態に備えた防災対策を行いましょう。

自宅の安全対策

屋内（部屋全般）

①家具

- 食器棚やタンスは L 字金具や転倒防止棒等で固定します。
- 開き戸には留めバンドをつけます。
- 軽い物を上、重い物を下に収納して家具の重心を低くします。
- 前面に転倒防止板を挟み、壁にもたれかからせるようにします。

②テレビ

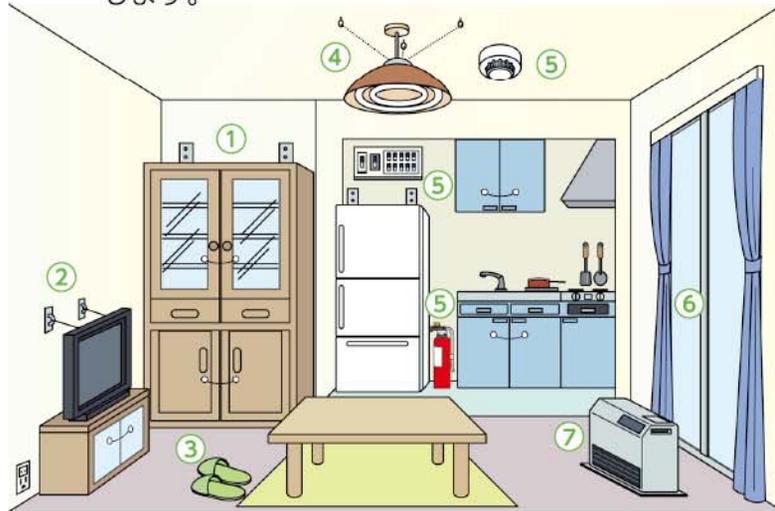
- できるだけ低い位置に固定します。

③スリッパ

- ガラス片等によるけがを防ぐため、厚手のスリッパ等の室内履きを用意します。

④照明

- チェーン等を使い、3 箇所固定します。



⑤火災予防

- 火災警報器や感震ブレーカー、消火器等を用意します。

⑥窓

- ガラス全面に飛散防止フィルムを貼ります。
- カーテンは防災加工を施したものにします。

⑦暖房

- 対震自動消火装置付きを使用します。

屋内（家具のレイアウト）

室内に安全な空間をつくる

- 人の出入りの少ない部屋に家具をまとめて配置します。
- 無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように配置を工夫しましょう。

寝室等に家具を置かない

- 就寝中に地震が発生すると危険です。寝室のほか、子供や高齢者のいる部屋には家具を置きません。

出入口に物を置かない

- 出口を塞がないために、玄関までの通路に倒れやすい物を置きません。

屋外

①屋根

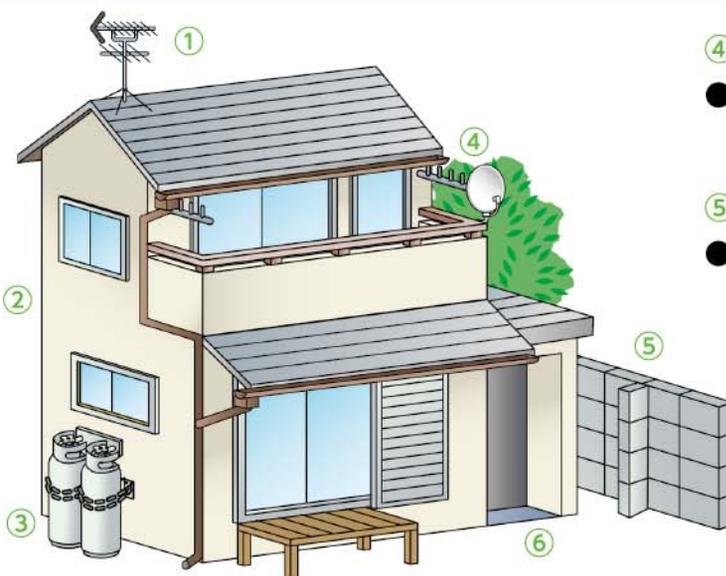
- アンテナはしっかり固定します。
- 屋根瓦やトタン屋根に破損や腐食箇所がないかを確認し、必要があれば補修します。

②外壁・基礎

- 壁や基礎のひび割れ、腐食やシロアリに食われている箇所がないかを確認し、必要があれば補修します。

③プロパンガスボンベ

- 鎖でしっかり固定します。



④ベランダ

- アンテナはしっかり固定します。

⑤ブロック塀

- 鉄筋が入っているか、破損箇所がないかを確認し、必要があれば補修します。

⑥玄関・通路

- 避難の妨げになるため、出入口や通路に自転車やベビーカー等を置きません。

河内町木造住宅耐震化補助事業

河内町では、大地震による家屋倒壊被害を減らすため、昭和 56 年 5 月 31 日以前の建築基準法に基づく耐震基準で建築された木造戸建住宅を対象とする「河内町木造住宅耐震診断士派遣事業」を無料で実施します。また、耐震診断（精密診断）を実施済みで、一定の条件を満たした耐震補強工事等に対して、「河内町木造住宅耐震補強補助事業」により補助金を交付します。

なお、両事業とも実施件数や申請対象等に条件があります。詳細につきましては、町ホームページまたは河内町都市整備課までお問合せください。

災害用備蓄品

災害が発生しても、すぐに被災者へ食料や必需品が届くことは、ほぼありません。「自助」の一環として自分で用意しておきましょう。「非常時持出品」「備蓄品」とも、下記の一例に自分や家族に必要な物を追加しましょう。

自宅の安全対策

非常時持出品

「非常時持出品」は、避難の際に自分が持てる範囲で必要な物を揃えます。とっさの場合に持ち出せるよう、日常持ち歩いている物以外はリュックサック等に詰めて、取り出しやすい場所におきましょう。

※ 事前に準備できているか、チェック しましょう。

現金・通帳・印鑑	飲料水	救急セット (包帯・ハサミ・ガーゼ・絆創膏・三角巾)	下着・靴下
免許証・保険証	乾パン・缶入りパン		タオル・石鹸
懐中電灯・電池	缶詰 (缶切り)	持病薬	マスク・軍手
マッチ・ライター	ビスケット・チョコレート		ヘルメット・防災ずきん
携帯ラジオ	栄養補助食品	お薬手帳・処方箋の写し	セーター
携帯電話・スマートフォン (予備バッテリー)	加熱しないで食べられるもの	液体ミルク・ミルク・おむつ	
		生理用品	
上記のほかに必要な物			

備蓄品

「備蓄品」は、災害発生直後から数日間、自給自足で過ごすために必要な物です。飲料水や食料品は最低 3 日分、できれば 1 週間分用意しましょう。

※ 事前に準備できているか、チェック しましょう。

飲料水 (1 人 1 日 3ℓ)	ティッシュペーパー・ウェットティッシュ	歯ブラシ・歯磨き粉・マウスウォッシュ
食料 (レトルト食品、アルファ米、缶詰等)	ビニール袋	ドライシャンプー
給水用ポリタンク	カセットコンロ (予備ボンベ)	工具セット
紙皿・紙コップ・割り箸	ラップフィルム	簡易トイレ
上記のほかに必要な物		

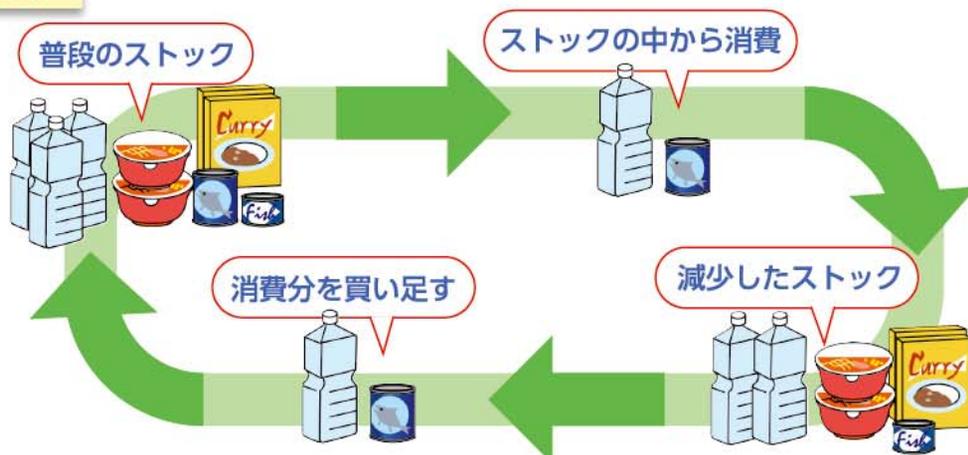


ローリングストック法

ローリングストック法は、普段から少し多めに食料を購入し、消費した分 (食べた分) を新たに買い足していく備蓄法です。

この方法では、常に一定量の食料が備蓄でき、消費期限切れによる無駄も無くなります。また、災害時でも普段から食べ慣れている食事が提供できる点もポイントです。

ローリングストック法は、食料品だけでなく日用品 (トイレットペーパーやラップフィルム等) の備蓄にも適しています。



指定緊急避難場所・指定避難所マップ

指定緊急避難場所、指定避難所、福祉避難所は、それぞれ役割が異なります。

災害発生時の被害状況によっては最寄りの避難所に避難できない場合があるため、あらかじめ複数の避難先への避難経路を確認しておきましょう。

※震災時の避難場所等となります。洪水時の避難場所等は洪水ハザードマップを参考にしてください。

指定緊急避難場所	指定避難所	福祉避難所
 <p>地震などの災害による危険を回避するために一時的に避難する場所です。</p>	 <p>自宅での居住が危険または困難な時、一時的に滞在する施設です。</p>	 <p>高齢者など指定避難所では生活に支障が出る方向けに開設される特別な避難所です。</p>



No	避難地区	名称	住所	電話番号	指定緊急避難場所	指定避難所	対象災害(水害)	対象災害(震災等)
①	生板	旧生板小学校	生板2506	—	●	●	●※4	●
②		福祉センター	生板9593	0297-84-3699	●	●		●
③		第1地区共同利用施設	幸谷64-2	—	●			●
④		第2地区共同利用施設	生板9593-2	—	●			●
⑤		(福)千の風・河内	生板4627	0297-60-4166		●※1		●
⑥		(福)あじさい苑	生板8907	0297-84-0311		●※1		●
⑦	源清田	旧みずほ小学校	源清田1942	—	●	●※2	●※4	●
⑧		旧河内中学校	源清田57	—		●※3		●
⑨		西共同利用施設	源清田279	0297-84-4888	●	●		●

※1=福祉避難所 ※2=校舎部分のみ使用可 ※3=体育館部分のみ使用可 ※4=2階部分以上を緊急避難場所とする

<指定緊急避難場所・指定避難所の注意事項>

指定緊急避難場所

- 屋外になりますので、各自の判断で危険を回避するために避難してください。
※洪水避難時は除きます。

指定避難所

- 災害状況により、開設する指定避難所は異なりますので、町からの開設情報(防災無線等)をご確認のうえ、避難してください。



No	避難地区	名称	住所	電話番号	指定緊急避難場所	指定避難所	対象災害(水害)	対象災害(震災等)
⑩	長竿	旧長竿小学校	長竿221	-	●			●
⑪		中央公民館	長竿3689-1	0297-84-2843	●	●		●
⑫		農業者トレーニングセンター	長竿3566	0297-84-2843	●	●		●
⑬		農村環境改善センター	長竿3689-1	0297-84-2843	●	●		●
⑭		(福)保健センター	長竿3689-1	0297-84-4486		●※1		●
⑮		かわち学園	長竿5456-1	0297-84-6233	●	●	●※4	●
⑯		水と緑のふれあい公園	長竿5412	-	●			●
⑰	金江津	旧金江津小学校	金江津4465	-	●	●	●※4	●
⑱		旧金江津中学校	金江津7501-2	-		●※3		●
⑲		東共同利用施設「つつみ会館」	金江津645-227	0297-86-2090	●	●	●	●
⑳		第5地区共同利用施設	片巻905	-	●			●
㉑		田川共同利用施設	田川520-3	-	●			●
㉒		田園都市センター	十三間戸496-1	-	●			●

リアルタイムで情報確認

気象情報・防災情報

地点別浸水シミュレーション 検索システム【浸水ナビ】

堤防が決壊する場所に応じた、ご自宅の浸水深(0.1m単位)や洪水の到達時間などをアニメーションやグラフで確認できます。
<https://suiboumap.gsi.go.jp/>



気象庁

気象情報
<https://www.jma.go.jp/>



茨城県 防災・危機管理ポータルサイト

茨城県の災害情報
<https://www.bousai.ibaraki.jp/>



国土交通省 川の防災情報

河川情報
 <PC版> <https://www.river.go.jp/>
 <スマートフォン(smph)版>
<https://www.river.go.jp/s/xmn0105010/>



防災無線テレフォンサービス

防災無線の放送内容をで聞くことができます。
☎ 0297-84-2212

東京電力パワーグリッド

停電情報 ☎ 0120-995-007

河内町上下水道課

断水情報 ☎ 0297-84-2361

稲敷広域消防本部テレフォンサービス

火災情報 ☎ 0297-64-0119

河内町からの情報提供

かわちキラリメール

メールアドレスを登録することで、河内町より様々な情報をメール配信するサービスです。配信項目は、「災害情報・防災無線」「町からのお知らせ」「イベント・講座等情報」等から選択できます。
 <PC版> <http://www.town.ibaraki-kawachi.lg.jp/page/dir000111.html>
 <スマートフォン(smph)版> <http://www.town.ibaraki-kawachi.lg.jp/sp/page/dir000111.html>



Yahoo! 防災速報

ヤフー株式会社が提供する緊急地震速報や降雨予測などをお知らせするサービスです。アプリを登録することで、エリアメール(緊急速報メール)より詳細な情報を配信します。
 町から配信される情報(一例)～
 「避難に関する情報」「ライフライン情報」「災害時の注意喚起」「防災訓練等のお知らせ」

アプリのダウンロード→



エリアメール・緊急速報メール

エリアメール(NTT ドコモ)・緊急速報メール(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)とは、携帯電話を利用した災害時専用の情報配信システムです。気象庁が配信する緊急地震速報や町が配信する避難情報等の緊急かつ重要な情報を携帯電話に配信します。事前に登録する必要はありません。

<注意事項>

- 左記4社以外の携帯電話では受信できない場合があります。
- 町内全域にメール配信するため、仕事や観光等で町内にいる方も受信できます。

災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使い方

災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板は、大規模な災害発生時に安否確認の通話が増加し、電話が繋がりにくい状況になった場合、通信会社によって提供されるサービスです。登録した音声やメッセージは、電話番号をキーとして被災地内と被災地外で安否確認のやり取りが行えます。

これらのサービスは、毎月1日と15日、正月三が日、防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)、防災週間(8月30日～9月5日)等で体験利用ができます。

NTT 災害用伝言ダイヤル (171)



NTT 災害用伝言板 (web171)



携帯電話の災害用伝言板



わが家の防災メモ

家族の連絡先

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報	氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関	

緊急時連絡先 (親戚・知人等)	氏名	間柄	電話	住所	メモ	